



医学部長就任の御挨拶

就 任 挨 拶

麻醉科学講座 教 授 須加原 一 博

琉球大学医学部医学科同窓会の皆さまには、日頃医学科を支援して頂き誠にありがとうございます。お礼申し上げます。

まず、東日本大震災および原発による未曾有の災害に対し、多くの被災された皆様には心よりお見舞い申し上げると共に、医学部としても全力を挙げて支援し、これからも支援していきたいと考えております。ご協力の程よろしく申し上げます。

昨年度までは、医学部附属病院長として3年間のたいへんお世話になりました。事務部長、総務課長はじめ事務系の皆さんにも支えられ何とか責務を果たすことができました。心からお礼申し上げます。

さて、平成23年4月1日付けで医学部長に就任しましたが、医学部にはいろいろな問題が山積しており、同窓会の皆様にご協力をお願いして解決しなければならないと考えています。

まず、ご存知のように医師国家試験の成績が下位の方で芳しくなく、この改善は、喫緊の課題だと認識しております。医学科のカリキュラムを1年次から変える必要がある（カリキュラム改革）と感じています。医学部長になるにあたり、久しぶりに履修要綱を見ました。折角難関を突破して医学部に入り、「りっぱな医者になるぞう」と希望に燃え意気込んでいるところに、共通科目が始まり、沖縄の暖かい南国的な雰囲気から開放感もあり、気が緩み、立て直すのに時間がかかっているのではないかと危惧しているところです。

「医学科のカリキュラム改革」の考えにつきましては、医学部のホームページをご参照下さい。この問題については、同窓会長はじめ役員の方々と医学部との懇談会で鋭意検討して頂いております。

同窓会には、教員のFDや医師国家試験模試の支援など積極的に取り組んで頂いており、成果が上がってくるものと期待しています。

第2に、大学病院での初期臨床研修医が少なく残念に思っています。一つには、臨床実習での各診療科の充実を図る必要があります。良いところをしっかりと説明し専門研修を含め、学生の身になってキャリア形成を示すことが重要だと考えます。特に地域枠学生にはしっかりと教育し、質の高い医師として育成する責務があると考えております。「プロフェッショナル」としての自覚と向上心、使命感をもった医師になってほしいと期待しています。初期臨床研修は、県内の病院でも、専門研修は必ず大学病院でしたいと思うだけの医療レベルの高さをしっかりと示せなければなりません。さらに、臨床研究や基礎研究に興味を抱かせるような、リサーチマインドを高める取り組みも必要です。そして第一線で活躍されている同窓会の先生方から、専門研修病院として強く大学病院を薦めて頂ける、自信を持って薦められる良質な医療実績を示すことが重要と考えています。一方、「沖縄クリニカルシミュレーションセンター」が完成すれば、大学での研修医は必ずや増加すると期待しています。現在、沖縄では、県、県医師会、県立病院、民間病院と大学病院とが一体と成って連携し、良い方向で進められています。All Okinawaとして、完結型医療を目指し、地域医療の充実に貢献できるような良質な医師の育成に決意を新たにしているところです。会員の皆様からのご意見、ご指導をお願いします。

最後に、同窓会会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念します。